

THE MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION

地域の伝統文化

公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団

地域の伝統文化 第28号

令和2年11月3日発行

発行：明治安田クオリティオブライフ文化財団
編集：専務理事 壁谷 章 可
住所：〒163-0633
東京都新宿区西新宿1-25-1
TEL:03-3349-6194
FAX:03-3345-6388
<https://www.meijiyasuda-qol-bunka.or.jp>



徳島県海部郡海陽町「穴喰祇園祭お能保存会」(令和二年度助成先)の奉納舞「八つ橋」

令和二年度 「地域の伝統文化の継承・発展活動」 に対する費用助成希望受付開始

公益財団法人明治安田クオリティオブライフ文化財団では、平成三年六月に財団を設立以来、地域に伝承されてきた「地域の伝統文化の継承・発展活動」とくに後継者の育成に必要な諸活動に対する助成を行なっています。令和三年度で三回目をもかえます。

これまでに行なった助成は、累計一二六四件となり、その地域も全国の都道府県に及んでいます。

令和三年度も以下の内容により公募を行ないます。

詳細につきましては、各都道府県の教育委員会または知事部局の文化関係所管課に送付してあります「令和三年度助成申込要領」をご覧ください、お申し込みください。

なお、申込要領の詳細は、財団のホームページにも掲載しています。

『申込要領の概要』

【助成対象】

「地域の民俗芸能」「地域の民俗技術」の継承、とくに後継者育成のための諸活動に努力をしている個人または団体。

【助成の条件】

令和三年度（二〇二二年三月まで）に後継者育成を目的とする諸費用（道具整備費、製作材料費、育成研修費、記録保存費用など）の支出を予定していること。その支出を賄うために、外部からの資金協力が緊急不可欠であること。

【申込手続】

一、提出書類

「申込書」（所定用紙）

「推薦書」（所定用紙）

「活動状況がわかる写真」

「直近の収支決算書（写）」

「参考資料」等

二、申込に際し、「推薦書」に各都道府県の教育委員会または知事部局の文化関係所管課の推薦・捺印を受けてください。

【手続日程】

一、申込期限

令和三年一月二十九日（金）

二、結果発表

令和三年三月下旬（予定）

【選考方法手続】

提出書類に基づき当財団の選考委員会で厳正に審査し、理事会に答申して決定します。

【助成金額】

一、民俗芸能への助成は、

一件につき七〇万円が限度

二、民俗技術への助成は、

一件につき四〇万円が限度

【伝統文化分野選考委員】

委員長 小島美子

委員（国立歴史民俗博物館名誉教授）

委員 田中 宣一

委員（成城大学名誉教授）

委員 田村 善次郎

委員（武蔵野美術大学名誉教授）

委員 西角井 正大

委員（国立劇場おきなわ運営財団理事）

委員 星野 紘

委員（東京文化財研究所名誉研究員）

委員 渡辺 行信

委員（当財団評議員）

（敬称略）

Ⅱ 特別寄稿Ⅱ

「ダム建設と伝統文化」

(成城大学名誉教授)

田 中 宣 一

(当財団伝統文化分野選考委員)

田中宣一先生略歴



福井県出身。
国学院大学大学院文学研究科
博士課程修了。

成城大学文学部教授を経て、
現在、成城大学名誉教授

祭りや年中行事をはじめ、近現代の民
俗の変化について研究。

主な著書に、

『年中行事の研究』『祀りを乞う神々』

『徳山村民俗誌―ダム水没地域社会の
解体と再生』『柳田国男・伝承の「発
見」』『名づけの民俗学』

編著・共編著に、

『暮らしの革命―戦後農村の生活改善
事業と新生活運動』『食の昭和文化史』

『三省堂年中行事事典』『海と島のくら
し』など多数。

ダム建設と家々の移転

ここ数年、七月の梅雨明けの頃にな
ると、どこかで必ずといってよいほど
大水害が発生する。日本列島、昔から
この時期の水害はめずらしくなかった
ものの、近年は線状降水帯などという
語も耳馴れるほど、同じ地域に何日も
豪雨がつつく。地球温暖化が直接関係
しているのかどうか、とにかく異常な
ことで、被災された方々を思うと心が
痛む。

こういう集中豪雨のさいにはしばし
ばダムの役割とか放流のタイミング
云々が問題になるので、ダムに関し、
或るダムの建設と家々移転の例を述
べ、人々・家々のつながりと地域の伝
統文化を考えてみたい。

皆様は徳山ダムをご存じでしょう
か。岐阜・福井・滋賀の三県が交わる
あたりの岐阜県側にある。東海道新幹
線の、関ヶ原あたりで北側に見える
山々のずっと奥の方である。地理の授
業で教わった方も多いかと思うが、洪
水から地域を守るために輪中（わじゅ
う）という対策を講じたのは揖斐川
（いびがわ）の中流域の村々だったが、
その揖斐川の最上流に設けられている
のが徳山ダムである。ダムは用途別に
発電用、水道や灌漑用水などへの利水
用、洪水調節の治水用に大別でき、そ

れらを兼ねた多目的ダムもある。徳山
ダムはこれである。堤高一六メートル
は、確かに有名な黒部ダムに次ぐ第二
位の高さ。貯水量は六億六〇〇〇万ト
ンで、これは浜名湖の約二倍の水量ら
しく、わが国有数の大ダムである。

徳山ダムの地には、昭和六十二年三
月まで徳山村が存続していた（ダムの
名称もこの村名による）。八つの集落か
ら成り、約五〇〇世帯、三〇〇〇人余
が暮らしていた。本格的な電気の恩恵
に浴したのが昭和三十八年というよう
に遅く、また戦前には稗や栃の実を常
食にしていたような山間奥地の村だっ
た。しかし縄文遺跡が各所にあり、幾
つかの峠を越えて美濃（岐阜県）と越
前（福井県）を結ぶ山道も通っていて、
早くから人の息吹の感じられる地域
だったのである。

住民と水資源公団など事業主体との
厳しい補償交渉の妥結したのは昭和
五十八年。慌ただしい住民移転の後、
昭和六十一年度末に閉村したのであ
る。そして平成十九年にダム建設工事
が完了して湛水が始まり、古来、多く
の営みの繰り返された地はダムの湖底
に沈んでしまった。現在、ダムによつ
て下流域の水利用に余裕ができ、治水
の面でも安定し、多くの人々が大きな
恩恵に浴している。

戦後、奥只見、黒部、小河内、佐久
間、御母衣等々の大ダムが完成し、電
源・利水の面でわが国の高度経済成長
に貢献してきた。その陰で移転せざる
をえなくなった家も多く、水没移転世
帯を出したダム建設は約三〇〇件、世
帯数は二万七〇〇〇ほどにのぼる。し
かし徳山ダムのように八集落五〇〇世
帯全部が水没し、自治体としての一村
がなくなってしまうというのは、きわ
めて異例だったのである。

伝統文化の保存継承

ところで皆様は、父祖の地そして現
にいま暮らしている地域が湖底に沈む
と決まったならば、どのようにお思い
になるでしょうか。どう対処されるで
しょうか。



【本巣町（現・本巣市）で
資料館として再活用された旧徳山村の民家】

徳山村には、豊富な山林資源をめぐ
るさまざまな生活文化が形成されてい
た。一例として、栃の巨木が多かった
のでその利用について述べてみよう。
栃の木は建築材には不向きだが、板状
に切るとブドウモク・ダイヤモクなど
という美しい木目が表れるので、床の
間に用いたり大きなテーブルなど家具
や楽器用の銘木として有用である。秋
には実が大量に収穫でき、重要な食料
としても利用価値が高かったので、伐
採・採取にまつわる長年の特色ある慣
行や技術が伝えられていた。栃の実
はわが国の縄文時代からの食糧ではあつ
たが、澱粉が豊富とはいえず、えぐみの
強いこの加工はなかなか面倒で、食
料としての利用法は、ささやかではあ

るが山村のまぎれもない伝統文化だったのである。近代化の波でだいぶ薄れてはいたが、移転で失われたのは惜しまれる。しかしかつて使用されていた道具は集められて、隣村に設けられた資料館に保存され、技術もいくらかは記録して後世に伝えられることになったのはよかった。資料館には、他の特色ある生活用具も保存されることになった。

山村の生活は、外部の者には労働がきつく、刺激が少なく面白みに欠けると映るかもしれないが、長年の家々・人々のつながりの上に、日々穏やかに楽しく過ごされていたのである。この家々・人々を結合させる積年の智慧は一つの文化であるが、その有力な営みに、先祖代々が心を寄せてきた神社・寺院（道場という施設もあった）の維持と管理に向けた共同作業があり、祭り・行事があった。そこには共同の祈りがあり、一緒に楽しむ歌や踊りも伝えられていた。それだけにダム水没移転にさいしては、神社・寺院の処遇が難しく衆知の集めどころだったのである。紙数の関係で神社についてのみ記すが、その前に、移転先と補償問題について簡単に触れておこう。

三割ほどの世帯が、親戚・知人を頼って各地へ個人移転していったが、残り七割は長年のつながりを捨てがたく思い、集団での移転を希望した。水資源公団は要望を容れて、岐阜市周辺などに五カ所の造成団地を用意したので、七割の世帯はかつての集落をいったん解体し、今後の生活や新たな仕事の便利さを考慮して、思い思いに五カ所に分散していくことになった。造成団地での生活は異なる集落の混合ではあったが、全世帯が徳山村出身なのでそれなりに落着く目安はできたのである。家の移転はそれでよかったが、

さてそれでは神社はどこへ移転させ、長年継承してきた祭りはどのようにしたらよいのか、困ってしまった。

八集落すべての神社には当然、社殿・備品があり境内地があり、小さいとはいえ森林もあつた。それらに対して立木一本一本まで計算して、集落に對してしかるべき移転補償費が支払われたのである。しかし集落を解体し、五つの造成団地に散らばることになってしまったのでは、神社をどの団地近くに移転させたらよいのか、集落のメンバー全員が納得できるような地はなかなかみつからない。さりとて廃社にして補償金を各世帯で分けることなど、できるはずもない。先祖代々が祈願をこめてきたご神体はどうなるのか、不安を覚えるようになった。日夜協議を重ねてみたが、各集落とも結論は出ない。そこで集落間の協議状況を連絡し合っているうちに、八集落の神社を合併する案が浮上したのである。コロナプスの卵ではないが、言われてみればもつともな案だったが、八幡神社とか白山神社等々、集落ごとに「おらが神社」意識で固まっていたときには出てこない発想だったのである。補償の金額には神社間でだいぶ差があつたようだが、結局すべてまとめて新たな神社に用いることに合意が成った。

伝統文化とともに

名称は徳山神社に決まり、最も多くの世帯が移転する大きな団地の横で、かつ近くにもう一つの造成団地のある場所に創建されることになった。神殿にはすべての神社のご神体が収められることになって、先祖代々の祈りも何とか継承されることになった。

これで、もやもやしていた幾つかの問題も解決に向つた。長年馴染んできた徳山という村名・地名が消えてしま

うのは何とも辛い、移転先でも徳山という名を身近に感じていたいという思いを多くの人が持っていたが、新神社に徳山をつけることによってそれが可能になったのである。村内には小祠・小堂・記念碑類もいくつあつてその処遇が悩ましかったが、これらも新神社創建によって行き先が決まったのである。



〔徳山神社第一回例大祭での餅まき〕

各神社の祭礼行事も多くが継承されることになった。四月に多かった集落神社の祭礼期日は、新神社の四月第二日曜日という例祭日に引き継がれ、またどの集落でも慣例として行なっていた元旦の宮参りは、歳旦祭という新たな祭礼を設けて継承されるようにした。自治体主催の成人式とは別に、昔から十五歳男児の元服行事を続けていた集落があつたり、別の集落では年末に十二灯占祭という年占行事を行なっていたが、これら特色ある伝統行事も徳山神社の行事の一つとして継承されることになったのである。移転はたい

へん辛いことだったが、先祖代々の心の拠り所が新しい形で生まれ変わり、行事の多くが継承されることになり、移転先での一つの希望が生れたのである。

その後、これらの行事は徳山神社で行なわれつづけている。特に例祭に当たっては、前日に神輿が神社近くの造成団地を練り歩き、当日は式典の後、神輿を車に乗せて残りの四つの団地を順々に巡って、その会館を御旅所として、神社まで参拝出来ない人々のために、二時間ほど祭式・直会を練り返すことになったのである。



〔徳山神社第一回例大祭の賑い。平成3年4月14日〕

伝統文化というものは、それに浸っている時には単なる日常の営みであり、毎年繰り返される楽しい行事にすぎず、重要性への認識は特段感じない。しかしそれが消滅の危機に直面した時、ふっと我に返り、自らを育み心身に染みこんでいる代えがたい文化だと自覚するのだということを、徳山村の人々は教えてくれたように思われる。

寄 稿

青笹しし踊り 「守る」「受け継ぐ」「伝える」

岩手県遠野市
青笹町しし踊り保存会

会長 菊池 由紀夫
(令和二年度助成先)

◇縁起

遠野市の各地に伝わる「しし踊り」は、慶長の時代(一五九六―一六一四)に山城の国から伝来した鹿踊りに、郷民に親しまれた農民の豊年踊りと山岳信仰の所産といわれる御神楽の山神踊りが融合してできたもので、青笹しし踊りは一七〇〇年頃、「踊り嘉兵衛(かへえ)」という人物により青笹の地に伝えられたと言われています。

◇これまでの歩み

青笹にしし踊りが伝来後、町内の「糠前(ぬかまえ)」「中下(なかしも)」「中沢(なかざわ)」の各地域で踊り継がれてきたしし踊りが、後継者の育成、装束等の準備・保存を目的として昭和三十九年に一つに統合され、「青笹しし踊り」が誕生しました。昭和四十年には「青笹町しし踊り保存会」が結成、また、昭和四十年には遠野市指定無形民俗文化財に、昭和四十九年には岩手県指定無形民俗文化財にそれぞれ指定され、昭和五十三年には文化庁より「記録作成等を講ずべき無形の民俗文化財」に選択され、記録保存映像の収録や記録誌を作成しています。



[ロンドンジャパンまつり]



[六神石神社例祭]

らは青笹保育園の運動会のアトラクションとして取り入れられ、現在に至っています。

毎年、九月に行われる「日本のふるさと 遠野まつり」、地元演の「六神石神社例祭」の恒例出演の他、毎年二〇件程度の踊り披露の機会があります。

◇踊りの構成

青笹しし踊りは、踊りの先導役で大人の男性が踊る「種ふくべ」、幼児から小学生が踊る「子踊り」、中学生が踊る「中太鼓(なかだいこ)」、高校生から大人の女性が踊る「刀かけ」、高校生から大人の男性が踊る「しし」、性別年代を問わない囃子方の太鼓と笛で構成されます。

本来、屋外で踊られる「庭踊り」なのでお祭りでは門かけする庭、イベント等では広場やステージで踊ることが多く、本来の踊りの流れを三〇分程度に短縮して披露することが多くなっています。踊り披露の一例としては、庭にお邪魔しますという「庭参め(にわまめ)」、入場して五穀豊穡を願う「ししと刀かけが戦う様を表現する」「かんかた入端(いはは)」「膝立て入端」「山の神入端」「廻り入端」、豊作を祝う様を表現する「ケシヨウ踊り」、作物を荒らすししと戦い、共存を表現する「柱がかり」、豊年踊りを模した「小切」、庭元への感謝を意味する「大切」、踊りのメを意味する「引き端(は)」、退場しながら踊る「本引き端」の一種類の踊りから構成されています。

◇伝承活動

地域の青笹保育園、青笹小学校、遠野東中学校で「青笹しし踊り」を地域文化の継承活動として取り入れており、保育園、小学校では運動会のアトラクション

として発表、中学校では遠野まつりで練習の成果を発揮しています。子供たちは、郷土愛の醸成も一つの狙いとして、保存会の大人が囃子方から踊りまで練習に入って指導しています。小学校では、「しし踊り学習会」で歴史や意味を学び、毎週木曜日を「ししの日」として朝練習を継続し、運動会前には体育やクラブ活動として練習に励み、本番を迎えます。また、運動会での発表が終わった秋には、上級生から下級生へ引き継ぎ会が行われ、小学校の中での地域文化の継承が行われています。



[青笹小学校運動会]

中学校では、校外活動として踊りの練習をし、毎年、遠野市最大のイベント「日本のふるさと遠野まつり」に保存会と一緒に参加しています。遠野まつりでは地域が一つとなった団体となり、三歳から七〇歳くらいまで約一〇〇人の団体となって青笹しし踊りを披露します。また、富山県で開催された令和元年度全国中学校総合文化祭では、岩手県代表として参加し、中学生の舞台いっぱい迫力あるしし踊りを披露してきました。

◇これからの保存活動
青笹しし踊り保存会は、市内でも最大のしし踊り団体ですが、他の郷土芸能団体同様、後継者不足は否めません。青笹のしし踊りを大人が本気になってその伝統を「守り」「受け継ぎ」「伝える」ことで、地域の子供たちにもその意味が伝わればと思います。平成二十七年には、保存会結成五〇周年の節目を迎え、踊りの演目すべてを踊る披露会を開催し、地域の皆さんに喜んでいただく、改めて「青笹しし踊り」があることを確信しました。今後その宝が永久に守り継がれるよう我々は努力してまいります。



[練習風景]

期練習で若手を中心に体力錬成しながら技術を磨いています。それに加えて出演機会前の強化練習では踊りの構成とスペースを確認しながらリハーサルを重ねています。また、踊りの練習だけでなく、装束の修理や小道具やワラジの作成なども伝承活動の一環として取り組んでいます。

寄稿

中萱熊野神社お船祭りの 伝承と継続について

長野県安曇野市明盛中萱
中萱紫石会
会長 岩井 亥佐男
(令和二年度助成先)

◇継承活動の歴史

中萱紫石会が発足したのは昭和五十六年ですが、江戸末期には「若き連」、明治時代には「お祭り青年」という組織があり、お祭りを仕切っていました。昔は一八才から二八才までの男子は義務として参加しなければならなかった。中萱地域の中心を流れる中堀堰を境に、上中萱、下中萱がふた手に別れ、昼間曳くお船、夜曳くヤタイ作りの担い手として上・下各々お船一艘・ヤタイ一艘、合わせて四艘を作り上げ奉納していました。

お船に人形を飾るようになったのは明治九年からと言われ、昭和四十四年まで続いてきたが、昭和四十四年、「お祭り青年」の年長者から負担が重すぎること、勤めに出る人が増えたこと、で、県下最大のお船祭りが中断することになりました。

その後、心ある地元青年団（私も一員でした）が、夜のヤタイだけでも復活させたいとの申し出が氏子総代初関係者に相談があり、大賛同のもと昭和五十年頃に出すようになりました。

昭和五十六年、中萱熊野神社の大遷宮祭にあたり氏子総代他多数の関係者から、この機会に古来より地域に伝わるお船祭りを是非復活させてほしいとの強い要請があり、以前お祭りに係った二〇数名が結束し中萱紫

石会が誕生しました。今年で四〇周年になりますが歴代会長初め会員達が、熊野神社の伝統文化を継承し後世に残したい一心で取り組んできました。また、このお船祭りは、市の無形民俗文化財に指定されており、会員皆誇りを持ち、お囃子や笛太鼓の練習、お船、ヤタイの準備から完成、飾り物の制作を通して今日まで継承、伝承しています。

◇行事の由来

古文書の記録は、火事で焼けてしまったり、熊野神社の神主の家がなくなったりして残っていない。従って歴代祭り関係者からの申し伝え、地元の学識経験者の記録メモ等によるものです。

中萱の祭りは「けんか祭り」と言われ、中萱地区のほぼ中央を流れる中堀堰を境に、上中萱と下中萱がヤタイとお船を一艘ずつ出して、夜（宵祭）はヤタイどうし、昼（本祭り）はお船どうしをぶつけ合います。その結果、下中萱のヤタイが壊れ、上中萱のお船が壊れてしまい、昭和二十三年には、ヤタイとお船は上・下合同で一つずつ出さざるを得なくなりました。

お船は、昔から前部を男腹、後部を女腹と言ひ、男腹の中は細く、女腹の中は太く作るのが慣習化されています。お船のヤグラ部分に張られている紅白幕は平成二年から使用しており、昭和五十七年から平成元年まではのれんのみでした。五穀豊穡・子孫繁栄を願ひ約一キロ

メートルのフナ道を一時間かけ、隣組長・PTA・小学生高学年以上の曳き手が、県下最大（全長二メートル・高さ八メートル）のお船を曳き回す姿は勇壮です。平成二十一年には、「熊野神社のお船祭り」として安曇野市無形民俗文化財に指定され、平成二十九年には、国の記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財「安曇野のお船祭り」のひとつとして選択されています。



【お船の曳行】

お船祭りは、現在八月の最終土・日曜日に行われています。以前（四十年前）は秋祭りとして十月六・七日に行っていました。稲刈り入れ等農作物の収穫が多忙なため、春祭りの四月六・七日に変更されました。しかしこの時期も早出し米の種まき等で忙しく、昭和五十六年の大遷宮祭で、社の改修工事が行われた折りに現在の日程になりました。四〇年が経過しています。

◇現在の活動

現在会員数は、二八名（女性三名）で、お船、ヤタイの飾り物係（一八名）と祭囃子（笛、太鼓）係（二〇名）の二班の構成で活動しています。年齢は三〇代から七〇代と幅広く、ほとんどの人が仕事をもち、夜の八時から二・三時間の作業を会の「郷土芸術伝承作業

所」で六月下旬から祭典まで行っています。



【こども（小学6年生）へ太鼓指導】

祭囃子係は、地域から選ばれた小学六年生の子供達に、作業所の二階で夜八時から一時間、笛や太鼓、チャンチャンの教育、練習を週四回（二・八日間）で曲目全八曲を伝承、指導しています。



【飾り物の作製：武者】



【飾り物の作製：馬】

◇後継者の育成

太鼓と笛は毎年小学六年生に伝承・育成し、この体験をいかし、社会人になった時に、古来より伝わる伝統文化を継承できる体制を進めてきています。なお、曲目には音符が無く、笛の習得に時間を要するので、音符を作成し、笛の吹き手全員が統一した音色が出せる体制作りをし、今後の育成活動に繋げていきたいと思います。

お船の飾り物作りは大変技術が必要だけに、まずは熟練者からヤタイの飾りを手始めに教育指導をしています。そして三・四年後にはお船飾りの人形、武将の頭、馬等の付けに進む。近年、中萱区外や県外からの転入者の方が、お船祭りに興味を持って下さる方が増え大変有り難いがたいことです（会員の中にも何人かいます）。今後、地元の方には勿論、転入者の方にも声をかけをし、後継者の育成を進めていきたいと考えています。今回、財団から助成を受け明治十五年に浅草で制作された貴重な大太鼓の修復と笛を購入し、大きな励みになっています。これからの「熊野神社のお船祭り」に誇りを持ち伝承に努めていく所存です。

寄稿

尾張旭市印場北部地区警固祭り 保存会の伝承と継続について

愛知県尾張旭市

尾張旭市印場北部地区

警固祭り保存会

監事 浅見 保永

(令和二年度助成先)

◇尾張旭市について

尾張旭市は、愛知県の尾張東部に位置し、東は陶器の街「瀬戸市」に面し、西は「名古屋守山区」に面した、人口八万三千八百人、(令二・六・一現在)二一km²のコンパクトな市です。人口の約七割が、区画整理事業後に転入した住民で、市域の約六分の一が公園という緑豊かな住みよい「住宅都市」・「公園都市」として整備されています。

昨年は、天皇皇后の「四大行幸啓」の一つに数えられる「全国植樹祭」が、市域の多くを占める愛知県森林公園で即位されたばかりの新天皇皇后をお迎えして開催されました。

◇祭りの経緯

印場北部地区の警固祭りは、天武天皇悠紀斎田伝承を持つ延喜式内社である洪川神社で奉納芸能として始まっています。明治三十九年に旭村に合併するまで印場村で風習として行われてきたその祭りは、馬の周りに長柄鎌などを持った警固人と呼ばれる人を配置し、大切な馬の標具(ダシ)を守っていました。さ

らに時代が進むと「棒の手」や「鉄砲」が隊列に加えられ「警固」と呼ばれる勇壮な行事に発展していきました。歴史をたどると印場村がこうした祭りに参加したのは、宝暦三年(一七五三)大森合宿に二頭献馬されたことが記録されています。

◇警固祭りの隊列・参加隊の紹介

○隊列―村旗+保存会長+杖つき+鉄砲隊+棒の手隊+献馬隊が二列縦隊で行進します。隊の内に位置する中割(ナカワリ)が隊列を整え、全員で穀物の豊作を表した「ホッサイ」と掛け声をかけながら行進していきます。



〔隊列の行進：村旗が先頭に行く〕

○杖つき―地区の長老、連合自治会長及び各保存会会長等が祭衣装と紋付羽織を着て、一文字の菅笠をかぶり手には杖を持ちます。
○鉄砲隊(火縄銃)―明治の時代には、印場村には一九挺しか

なかったと記録されています。各県の教育委員会・文化財保護委員会に登録された鉄砲が二〇挺前後使用され、昨今は、県の公安委員会において火縄銃の所持や火薬の使用について非常に厳重に統制されているため、火薬の譲渡・消費の許可も厳しくなっています。



〔鉄砲隊：火縄銃の発砲〕

○棒の手隊(東軍流)―貞享元年(二六八四)九月十五日、山伏伝昌院主塚本伝寿が東軍流武芸指南者である平岩清伝から東軍流目録を授かる。文化二年(一八〇五)当時の院主善京のときに棒の師匠元を父の門人に譲り、「棒の本巻」をその門人たちに相伝して今に至る。現在は斎場、塚本などの姓の人々を中心に伝えられて、攻めを主体とした演技が多い特徴がある。

昭和三十三年三月二十九日
愛知県無形民俗文化財指定



〔棒の手隊(東軍流)〕

○棒の手隊(直心我流)―正徳四年(一七一四)比企良雄から皆伝を授けられた八木弥市郎博章の手によって開かれた。誓文状一卷、直心之免状一卷、直心我流之免状一卷、直心我流棒目録九巻は各々木箱に納められ、蓋の裏側には梵字が書き付けてあり、代々受け継がれている。現代は浅見朝見、森、矢木などの姓に伝えられて、演技の速度が早く、かけ声(気合)も短い特徴がある。

昭和三十三年三月二十九日
愛知県無形民俗文化財指定



〔棒の手隊(直心我流)〕

○献馬隊(馬の塔)―尾張、西三河で行われている代表的祭礼習俗の一つで、標具(ダシ)と呼ばれる「高礼(ハンゲ)や御幣(ゴヘイ)又は村印(ムラジルシ)」を馬の背に立て、豪華な馬具で飾った馬「飾り馬」を寺社へ一日だけ献馬するものである。この行事には寺社などにおいて行う郷祭(ゴウマツリ)と、広範囲に信者圏を持つ寺社へ奉納する行事を、合属(カシユク)・合宿(ガツシユク)と呼ばれた。この地区は、竜泉寺の祭礼(大森合宿)

に参加していて、この大森合宿の最終は、昭和十一年(一九三六)と記録されています。

平成十二年四月一日

尾張旭市無形民俗文化財指定



〔献馬隊(馬の塔)：境内での駆込み〕

◇次世代への承継

棒の手、馬の塔は、尾張旭市棒の手保存会・尾張旭市馬の塔保存会が設立されていて、全市域一体となって保存・育成が図られています。下部組織の東軍流棒の手保存会・直心我流棒の手保存会は、毎年交互に地元の白鳳小学校において棒の手の出前授業を受け持ち、伝統文化の保存と継承の大切さを知らせるのと同時に、生徒たちに実際に棒・太刀を持って体験してもらっています。馬の塔保存会は、通常は馬道具の保管や修理、虫干しなどを行い、祭り折には馬道具の飾りつけや行事を指導し、道具の保存とともに後継者の育成を図っています。
今回、財団から助成を受け馬道具の修復がされることは、大きな励みになっています。これからも警固祭りを絶やすことなく、伝承に努めてまいります。

寄 稿

長坂浮立の継承と今後の役割について

長崎県佐世保市江迎町

長坂浮立保存会

会長 松永 信義

(令和二年度助成先)

◇長坂浮立の歩み

我が江迎町は佐世保の北部に位置し、西に平戸市、北に松浦市、南は九十九島国立公園に囲まれた、面積三六平方キロメートルの農村町です。戦前、戦後を通じて日本の復興を支えた石炭の産出地として栄え、北松炭田の中心として人口二万人余の町として活気ある発展を遂げてきました。が、エネルギー革命により石油にその地位を譲り、昭和四十年代前半に至り山が次々と閉山となり、現在はあちこちにボタ山が残り人口も四分の一に減少、五〇〇〇人の過疎の町に変貌し、平成二十二年に佐世保との合併にこぎつけた処です。

長坂浮立は、佐賀市の佐賀神社より発祥した玄播（げんぱ）浮立の流れを受けて、鉦の寄贈年より推察すると、天保（一八三〇～一八四三）・文化（一八〇四～一八一七）等の年号が記されていることから江戸時代中後期、今より二〇〇年前に伝承されたのではないかと思われまふ。この間、永々として継承されて来た訳では無く、戦時中

の金属供出の令を受け二番鉦と三番鉦を提供し、戦後は一時的に浮立ができない状態に陥りました。当時、我が町では農村地区にはそれぞれに浮立が有ったことですが、現在は我が長坂地区に残るだけで他は皆消滅しています。浮立ができない状態が続く、その危機を救ったのが長老で、町の篤志家より資金を募り昭和二十五年に鉦が鑄造され、ここに戦後五十年を経て再び長坂浮立が復活しました。以来、町のおくんち、庁舎落成、千灯籠祭（水掛け地蔵祭）など多数のイベントに出演し、町内は元より高い関心を持って皆さんの期待に応えています。又、昭和四十七年に江迎町無形民俗文化財の指定（その後、市の無形民俗文化財に指定）を受け、保存会を設立して現在に至っています。



[江迎町文化祭：平成29年11月]

特記すべきは、昭和四十二年長崎県の「子ども伝統芸能大会」

が当江迎町で開催されるにあたり、江迎小学校に「長坂子ども浮立」を創りたいという申し出が教育委員会より有り、これを快く受諾、連日の猛練習で大会にこぎつけ大称賛を浴び、毎年、保存会員の指導のもと、三二回目を迎えるところですよ。



[江迎小学校「江小まつり」：令和元年11月]



[江迎小学校「江小まつり」：令和元年11月]



[江迎町文化祭：平成29年11月]

尚、今になって思うことは「長坂子ども浮立」を育成して本当に良かったと考えている毎日です。我が長坂地区も過疎化が進み、小学生が全世帯（五六戸）中、僅か三名に減少、今や小学生に加勢を頼み共同出演している現状です。

◇今後の課題と継承活動について

私は四二歳で会長を拝命、現在七三歳であるので、三二年間、この組織の継承と育成に全力で取り組んで来ました。当時、笛の後継者不足で、曲が演奏されないとい他の部門もできないことになりました。二〇年前から特に笛の後継者育成に努め、二〇代から四〇代の男子一五名を特訓（毎年稲の収穫が終えたあと一〇日間を費やして練習に打ち込み、今では全員が全曲（九曲）をマスターして頑張っています。



[江迎小学校「江小まつり」：令和元年11月]

当地区は地区民全員が会員となっており、練習時には老若男女が公民館に集い秋の夜長を三世代交流おしゃべり会が催され、地区の親睦と団結に大いに役

立っており、どこまで続けることができるか分かりませんが、自分の代で終わりを迎えることだけは避けたいと強い決意を持って、子ども達と一緒に楽しく笑顔で毎日過ごしています。子ども達の指導には老人会が全面的に協力をして頂き、孫にあたる小学生との接触で本当に嬉しそうに指導している姿が生きがいや、他にさまざまな面でプラスになると思い、沢山の人の参加があるよう、車の手配、健康状態色々なサポートをしながら、『郷土愛』を育み様々な教育的価値の高い文化財継承をこれから先、続けられればと思う毎日です。



[江迎小学校「江小まつり」：令和元年11月]



[江迎小学校「江小まつり」：令和元年11月]

寄稿

幻と言われた中世の 根来塗の復興と伝統伝承

和歌山県若出市根来

根来塗曙山会

宗家 池ノ上 辰山

(令和二年度助成先)

◇根来の地の根来塗

私は和歌山県の根来に於いて、根来寺山内にある民俗資料館内根来塗工房にて中世の根来塗を作っております。総勢六二名で、内上級講座生(プロ養成講座)、直弟子が中世の最高峰の漆物と言われた、幻の根来塗を作り探求しております。

◇中世の根来塗と他の漆器の違い

みなさんが知っている漆器は、上品で煌びやかなもので、洗拭くのが難しく、例えば、洗拭くのに擦らないようにしてゆつくりと上から押さえ、絹、ガーゼ等の柔らかい布で拭くというよりもそつと押さえながら拭いて参ります。沸騰したものを直接入れることは出来ないうえ、他の入れ物(焼き物など)に入れ少し温度をおとしてから注いで参ります。必然、直接的に熱いものを入れると変色・ひび割れ・剥離等が起き、扱いが今の現代社会に於いては難しいのです。

くことができず。剥離、欠けも非常に少なく根来は焼き物より強いと言われ、もし一〇枚の焼き物のお皿を一〇年間程普段使用すれば、当然何枚かは割れる可能性がありますが、根来は木の器で中に麻布を用いた下地をして、中々割れることはありません。また欠けや剥離に非常に強く、只塗り物です。朱が塗ってあり、その下に黒を塗り、その黒が見え、その変わりゆく姿が非常に美しく、それはまるでジーンズが擦れ又破れ味が出てくるのと同様に、移りゆく曜のように美しい雅味が見えて参ります。

例えば、根来を代表する角切折敷(すみきりおしき)という、今で言う角が無いお盆の様な形状の中世の根来塗を代表する遺品があります。私達が知っている漆器のお盆であるならば、なるべく傷つけないように使い、傷が付いてしまうと塗り替え補修をします。ところが傷が味になる根来は、敢えて塗り物より硬い焼き物等を直に置き、上の朱が割れ下の黒が出てくる景色を楽しむます。それは中世最高の漆器と言われた由縁です。根来は塗り木との間の高度な漆下地が厚く強靱な為、剥離・欠けに強く何百年の年月を耐え、現代でも現役で使うことが出来る遺品も沢山残っております。ですから下から捲れるのではなく、飽くまで下地が丈夫なため上の朱がすり減るところまで使えます。長年使っていくことにより下地からヒビが入り、それさえも根来の美の「断文(だんもん)」と呼ばれながらその雅美を表出致します。私たち日本人は器を持ち上げ食事をします、軽く熱いものを入れスプーンを使わず直接出来る器が必要です。これこそが用の器であり、軽くて丈夫な漆器だからこそそれが可能だと思っております。その所作が堅牢な中世の根来は日常に使えます。傷が面白いのですから日々使うことにより愛着が湧き傷さえも良く見えて参ります。



[中世の根来の断文]

◇四一五年の時を超え 今蘇る中世の根来塗

私、池ノ上辰山は、幼い頃父の骨董の中から朱い漆器を見つけ、そのなれているさまに心惹かれこの道に入りました。駆け出しの時、色々な漆器、漆物を補修・修復して参りましたが、その中でやはり心惹かれるのは根来塗です。そのような中、根来塗権威者の河田貞先生とお会いし、根来塗の面白さ、根来塗を愛している周りの人達とお話を聞かせて頂きました。その事により、往時の堅牢で今の漆ものない、沸騰したお湯を入れる事も可能な中世の根来塗に惹かれ、又それを再現したいと思うように想いが日々募って参りました。河田先生の協力の下、日夜根来塗の復元に精進致します。



[那賀高校の根来塗の授業]

◇活動

小学校、中学校、高校などの出張授業を行い根来塗のことを皆様に伝え広めております。和歌山刑務所においても、受刑者に根来塗を勉強してもらいその精神を伝えました。今年の九月に和歌山県立那賀高等学校の三年生に授業を行い、本当の漆を使い下地から黒中塗りし、皆一生懸命作り最後の仕上げまで出来上がると、皆さんの顔が変わって参りました。

◇漆の植林

一一年前から裏の根来げんきの森において漆の植林をしております。日本産の漆が少なく、少しでも作ることが出来れば、また和歌山の漆で根来塗を作ろうと思ひ根来塗を学ぶ人たちが、年々数回皆で下草刈りをしながら世話をしております。ようやく漆が採れる太さになった木が何本か御座いますので近日漆の採取を考えております。



[漆植林の下草刈り]

◇結びに

私たちは、中世の根来塗の伝統工芸を皆様に伝えし継承するとともに、この度頂きました助成金を、伝統工芸を伝承する人達を育てる目的のために使わせて頂いております。

平成3年～令和2年 都道府県別伝統文化助成先一覧(1) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
				平成3年度助成(29)	
岩手県	小梨芸能保存会	山形県	堀内伝承文化保存会	北海道	石崎奴保存会
秋田県	戸沢ささら保存振興会	栃木県	山岡和三郎氏(日光下駄)*		厚岸かぐら保存会
	鷹巣町綴子太鼓上町保存会	群馬県	大神楽獅子舞保存会	青森県	紙漉沢獅子踊保存会
山形県	遊佐のアマハゲ保存会	埼玉県	明覚郷流鏝馬保存会		七戸町教育委員会
	峠ノ山八幡神社弓祭協賛会	千葉県	野田津久舞保存会	岩手県	白浜剣舞保存会
福島県	葛尾村公民館	神奈川県	大谷芸能保存会	宮城県	とよま山車まつり保存会
栃木県	大沢田太々神楽保存会	石川県	能登の揚浜式製塩保存会*	山形県	今利一郎氏(深山和紙製造)*
千葉県	佐原囃子保存会	福井県	花山行事保存会	群馬県	岩島麻保存会*
新潟県	片野尾歌舞伎保存会	岐阜県	加子母歌舞伎保存会	東京都	説経節の会
富山県	八尾町曳山保存会	愛知県	甚目寺説教源氏節人形芝居「もくもく座」		秋川歌舞伎保存会
福井県	糸崎寺仏舞保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会	新潟県	神谷地域ビデオ収録委員会
	福谷区大火勢保存会		二木島祭保存会	福井県	越前万歳保存会
山梨県	藤木道祖神祭保存会	滋賀県	吉身祭礼保存会	長野県	塩尻市教育委員会*
長野県	信級中原流太々神楽囃子保存会	兵庫県	福田お幡入れ法伝哉伝承保存会	岐阜県	大井文楽保存会
岐阜県	高雄歌舞伎保存会	和歌山	土生八幡神社お頭保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会
三重県	深野和紙保存会*	島根県	西本里美氏(西田葛の復興)*	奈良県	石打太鼓踊保存会
滋賀県	岩熊区雅楽保存会		中野神楽保存会	和歌山	大島水門祭保存会
大阪府	能勢町人形浄瑠璃実行委員会	広島県	八千代神楽団	島根県	西本里美氏(西田葛の復興)*
	堺式手織段通技術保存協会*	山口県	鷺の舞保存会		島後久見神楽保持者会
兵庫県	熊野神社祿祭り保存会	徳島県	森藤獅子舞保存会	広島県	比和町郷土芸能振興会
鳥取県	新田人形浄瑠璃芝居相生文楽	香川県	中山農村歌舞伎保存会		金城一国斎後継者池田昭人氏*
島根県	鹿子原の虫送り踊り保存会	高知県	佐喜浜八幡宮古式行事保存会		西原上十二神祇神楽保存会
	出雲民芸紙工房*	福岡県	内野地区老松神社獅子舞保存会	徳島県	中村園太夫座人形浄瑠璃
岡山県	壬生農村歌舞伎保存会	長崎県	坂本浮立保存会	福岡県	加布里山笠保存会
広島県	常定神楽継承団体「戸山会」	熊本県	上井出神社奉納楽保存会		新多神相撲保存会
山口県	別府岩戸神楽舞保存会	大分県	大行事八幡宮(カッパ踊保存会)	長崎県	大村龍踊り保存会
徳島県	犬飼農村舞台保存会	宮崎県	村所神楽保存会	大分県	木牟田子供神楽保存会
香川県	家の浦二頭獅子舞保存会	鹿児島	東郷文弥節人形浄瑠璃保存会	宮崎県	諸塚神楽保存会
愛媛県	大江山保存会		平成6年度助成(40)		大人歌舞伎保存会
高知県	野市町立山神社棒術獅子舞保存会	北海道	蘭越町根曲がり竹細工研究会*		平成4年度助成(34)
福岡県	平八月祭り保存会		鬼鹿松前神楽保存会	北海道	安浦駒踊り保存会
佐賀県	西塩谷面浮立保存会	青森県	鮫神楽保存会		長沼町勇獅子舞保存会
	武雄流鏝馬実行委員会	岩手県	上郷伝統工芸研究会*	岩手県	妹背牛町獅子舞保存会
長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会		石橋鑑剣舞保存会		上郷伝統工芸研究会*
熊本県	久連子古代踊り保存会		夏井大梵天神楽保存会	宮城県	伊藤流行山鹿踊保存会
大分県	丸山俚楽保存会	宮城県	塩入神楽保存会		鷹生郷土芸能保存会
宮崎県	今西三段打分太鼓踊保存会	秋田県	尾去沢からめ節保存会	金津七夕祭保存会	
鹿児島	入来麓疱瘡踊保存会	山形県	北條郷総鎮守獅子冠事務所	秋田県	大葛金山民俗芸能保存会
	佐仁八月踊り保存会	茨城県	柿岡からくり人形保存会		前山郷土芸能保存会
	中村悦子氏(芙蓉布復元)*	東京都	西川古柳座	山形県	押切神楽保存会
	平成8年度助成(43)	富山県	五ヶ種チヨガレ踊り保存会	神奈川	民具製作技術保存会*
北海道	留萌岩戸神楽保存会	石川県	柏野じよんがら保存会	山梨県	下部温泉神楽保存会
	(財)アイヌ民族博物館*		能登の揚浜式製塩保存会*	岐阜県	岐南町伏屋獅子舞保存会
青森県	古懸獅子舞保存会	福井県	だのせ祭り保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会
岩手県	行山流都鳥鹿踊保存会	山梨県	美和神社太々神楽保存会		一色町能楽保存会
	平組はしご虎舞保存会	長野県	日吉御嶽様祭り保存会	三日月市ナナイ保存会	
宮城県	武鎗鹿踊保存会	岐阜県	白鳥拝殿踊り保存会	兵庫県	淡河八幡播州音頭踊り保存会
秋田県	綴子下町太鼓保存会	三重県	大淀祇園祭保存会		池尻神社人形狂言保存会
	鳥田目番楽保存会	大阪府	貝塚東三吉馬保存会	奈良県	龍口獅子舞保存会
山形県	西川一座	兵庫県	青田神楽保存会	鳥取県	日南神楽 神光社
福島県	上三坂のやっつき踊り保存会	奈良県	誠謡会	島根県	西本里美氏(西田葛の復興)*
茨城県	あんば囃子保存会	和歌山	真国御田保存クラブ		隠岐いぐり風保存会*
栃木県	宗円獅子舞保存会	鳥取県	アリエ・グリヌ*	広島県	備後かすり学習会*
群馬県	沼田祇園囃子保存会連合会	島根県	赤塚神楽佐義利保存会		羽佐竹神楽団後援会
千葉県	仁組獅子舞保存会	広島県	江の川水系漁撈文化研究会*	山口県	鷺の舞保存会
東京都	ふるさと資料館建設推進委員会*		名荷神楽団	高知県	船戸花取踊保存会
神奈川県	仙石原神楽保存会	山口県	徳地人形浄瑠璃保存会	大分県	大分獅子保存会
新潟県	赤玉文化財保存会	徳島県	猿坂獅子組保存会	佐賀県	今寺面浮立保存会
富山県	八尾町曳山保存会	高知県	八幡丸運営委員会	長崎県	鷹島町島踊保存会
	福野縞の会*	福岡県	宮谷堂の口あけまつり保存会		萩田浮立保存会
福井県	加茂神社上宮の神事	長崎県	四三嶋獅子廻し実行委員会	大分県	武多都神楽保存会
山梨県	大久保神楽保存会		館浦須古踊り保存会	宮崎県	潮嶽神楽保存会
	沢登六角堂切子保存会*	熊本県	大島村盆踊振興会		杣木臼太鼓踊り保存会
長野県	成就神楽囃子保存会	大分県	中江岩戸神楽保存会子供神楽部会	鹿児島	三島村八潮踊保存会
	阿島傘の会*	宮崎県	重岡岩戸神楽保存会		平成5年度助成(35)
岐阜県	串原歌舞伎保存会		村所神楽保存会	北海道	ヤイユーカーラの森*
愛知県	(財)平野町町政会		佐々木寛治郎氏(手漉き和紙)*		新十津川町獅子神楽保存会
三重県	一色町能楽保存会	鹿児島	蓬原熊野神社神舞保存会	青森県	新山権現保存会
	深野和紙保存会*		伊江村民俗芸能保存会	岩手県	上郷伝統工芸研究会*
大阪府	船待神社神楽子供獅子踊り保存会		平成7年度助成(43)		赤沢芸能保存会
兵庫県	廣峯神社無形文化財保存協議会	北海道	月浦獅子舞保存会	宮城県	宮崎獅子舞保存会
奈良県	南都見耀会		釧路アイヌ民芸企業組合*	秋田県	中野七夕保存会
鳥取県	馬佐良申し上げ祭り保存会	青森県	沼崎念仏鶏舞保存会		

平成3年～令和2年 都道府県別伝統文化助成先一覧(2) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	長命講伊勢踊 土佐歌舞伎伝承会 今津人形芝居保存会 嘉瀬之浦獅子浮立保存会 森鉦浮立保存会 西大村浮立保存会 縦木神楽保存会 高沢組太鼓踊り保存会 五馬玉来神社楽保存会 尾八重神楽保存会 久留 平氏(太鼓製作)* 津貫中間豊祭太鼓踊り保存会 平出水太鼓踊り保存会 佐敷町津波古獅子蹴跳保存会* 保栄茂自治会	山形県 群馬県 神奈川 新潟県 石川県 福井県 長野県 岐阜県 三重県 滋賀県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	平田さしこの会* 猿田彦神社大和神楽保存会 大宮神社獅子舞保存会 海南神社面神楽保存神楽師会 湯川五社神社伶人会 木津豊漁太鼓保存会 若狭町三宅六斎念仏保存会 今庄羽根曾踊保存会 内山柱松保存会 若松友志会 栗谷念仏踊り保存会 老杉神社頭屋行事保存会 伊根町立石区 久多の山村生活用具保存会* 野間出野秋祭り保存会 多可町播州歌舞伎クラブ 祭文音頭保存会 木本八幡宮の御田祭保存会 円通寺人形芝居保存会 出雲大社教神代神楽波積支部波積神楽団 今田町内会 横野和紙工業協同組合* 比和町郷土芸能振興会 つるぎ町天の岩戸神楽保存会 香翠座デコ芝居保存会 弓削雨乞踊保存会 西畑人形芝居保存会 鐘崎盆踊り振興会 東真手舞舞浮立保存会 嬉野町温泉区面浮立保存会 黒丸踊保存会 目丸棒踊り保存会 本町虫追い太鼓を考える会 国東神楽社 綾町宮原地区唐人踊り保存会 伊崎田和紙保存会* 鹿児島市中山町下虚無僧踊保存会 草戸原 前パル原	平成8年度助成(続き)	
	平成12年度助成(49)	平成11年度助成(48)		平成9年度助成(47)	
北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 群馬県 埼玉県 神奈川 新潟県 富山県 山梨県 長野県 愛知県 三重県 滋賀県 兵庫県 奈良県 鳥取県 島根県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	掛漣奴保存会 目名神楽会 上郷し踊り保存会 塚沢早池峰神楽保存会 和渕法印神楽保存会 秋田市太平山谷番楽保存会 沢渡獅子舞保存会 海老根伝統手漣和紙保存会* 八槻都々古別神社楽人会 西金砂神社田楽舞保存会 平出歌舞伎保存会 日進餅つき踊り保存会 NPO法人小田原鋳物研究所* 城腰花笠踊保存会 岩瀬まだら保存会 八潮祭下町屋台保存会 小菅柱松神事保存会 大治太鼓保存会 能田徳若万歳保存会 ゆうづる会* 大江羯鼓踊保存会 下笠参弥礼踊り保存会 さいれん坊主保存会 月ヶ瀬奈良晒保存会* 田口水分神社奉讃会 竹田さいとりさし少年団 追神頭打供盛団 養山八幡の吹囃子行事保存会 柳井縞の会* 祝島神舞奉賛会 坂州若連中 ひょうげ祭り保存会 野市町立山獅子舞芸術保存会 川名津神楽保存会 一の宮万歳保存会 吉木芸能保存会 立岩浮立保存会 馬渡区鉦浮立保存会 土井丸浮立保存会 大浦区舟グロー保存会 嵯峨島オーモンデー保存会 福山神楽保存会 放生会委員会 北原人形芝居保存会 伊形花笠踊り保存会 塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)* 下小原八月踊保存会 大川青年会 謝名アヤチ獅子保存会	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 茨城県 栃木県 群馬県 埼玉県 東京都 新潟県 富山県 石川県 福井県 山梨県 長野県 三重県 滋賀県 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 徳島県 香川県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	蘭越町根曲がり竹細工研究会* 穂別町アイヌ民族文化保存会 龍神社法霊神楽保存会 山内神楽保存会 城生野神楽会 大沢郷椒沢番楽保存会 越沢自治会 海老根伝統手漣和紙保存会* 豊景神社太々神楽保存会 日枝神社流鏝馬保存会 升塚獅子舞保存会 奥平神社獅子舞保存会 深作ささら獅子舞保存会 江戸消防彩粋會 杉野沢民俗芸能保存会 福光ちょんがれ保存会 上井田獅子舞保存会 美浜町和田区 中之倉神楽保存会 日野多慶子氏(願法寺の絵解き) 曾原かんこ踊保存会 油日神社奴振り太鼓踊り保存会 吉志部神社どんじ保存会 大蔵谷獅子舞保存会 吉野山青年団御田植神事保存会 小川郷土芸能保存会 芦津獅子舞保存会 玉若酢命神社御霊会風流保存会 幸崎町能地春祭保存会 数方庭保存会 阿波木偶箱まわし保存会 さぬき農村歌舞伎祇園座保存会 高知獅子保存会	北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 富山県 石川県 福井県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県 和歌山 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 徳島県 香川県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	伝承ホーランエンマ馬湯權伝馬保存会 川上町渡り拍子保存会 阿刀神楽保存会 陶の腰輪踊り保存会 お簾踊保存会 遼・三番双保存会 流鏝馬武徳会 蔵上御田舞保存会 鬼木鐘浮立保存会 南阿蘇長野岩戸神楽保存会 天間地区公民館 広原神楽保存会 大の式式保存会 柏原区芸能保存会 武富旗頭復元実行委員会 雷公神社神楽会 田子神楽保存会 行山流都鳥鹿踊保存会 嵯峨立神楽保存会 森岳歌舞伎保存会 小田島田植踊保存会 北部先囃子若龍会 芦沼獅子舞保存会 沼須人形芝居保存会あけぼの座 野田津久舞保存会 宮城野獅子舞保存会 暫女唄ネットワーク 越後弥彦手仕事倶楽部* 八尾町曳山保存会 小松市歌舞伎愛好会 和久里壬生狂言保存会 仁科神明宮神楽保存会 新楽舎獅子舞保存会 島田帯祭保存会 古出来町神社奉賛会 長太鯨船保存会 なすび団扇継承保存会* 深野和紙保存会* 綿向神社雅楽「楽人座」 棚倉孫神社瑞饗御典保存会 久多の山村生活用具保存会* 貝塚三夜音頭継承連絡会 播州音頭踊保存連合会 安堵町なもて踊り保存会 高芝の獅子舞保存会 福栄伝統芸能保存会 民谷神楽団 大賀島大智明権現保存会 江波漣伝馬保存会 高川原勇獅子保存会 東かがわ市白鳥虎頭舞保存会 土佐の暮らしの文化を守る会 松尾山松会保存会 飯田面浮立保存会 若宮稲荷神社 竹ン芸保存会 中窪田神楽保存会 野々河内神楽保存会 高城町穂満坊あげ馬保存会 徳重大太鼓踊り保存会 平原利秋氏(ゴッパン・楽器製作)* 泡瀬京太郎保存会 伊波貞子氏(メジャー・織物)* 穂別町アイヌ民族文化保存会 白符荒馬踊保存会 丹内金津流鹿躍保存会 行山流湧水鹿踊保存会 山伏神楽保存会 雄物川町岡本新内伝承会 五城目町民俗芸能保存連絡協議会 横岡サエの神保存会
平成13年度助成(50)		平成10年度助成(47)		平成10年度助成(47)	
北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県	ペーパン福島踊り保存会 高館駒踊り保存会 小袖漁撈唄保存会 湯屋神楽保存会 筆甫神楽保存会 八沢木獅子舞保存会 福米沢送り盆保存会	北海道 岩手県 宮城県 秋田県	徳別町アイヌ民族文化保存会 白符荒馬踊保存会 丹内金津流鹿躍保存会 行山流湧水鹿踊保存会 山伏神楽保存会 雄物川町岡本新内伝承会 五城目町民俗芸能保存連絡協議会 横岡サエの神保存会		

平成3年～令和2年 都道府県別伝統文化助成先一覧(3)

* 印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
平成13年度助成(続き)		平成15年度助成(35)		平成14年度助成(48)	
三重県	水沢お諏訪おどり保存会	和歌山	藤白の獅子舞保存会	山形県	ハツ沼大名行列組合
滋賀県	ずいき祭保存会	島根県	南本通吉兆行事保存推進協議会	福島県	両原早乙女踊り保存会
京都府	丹後藤布振興会*	岡山県	白明会*	茨城県	東金砂神社田楽舞保存会
大阪府	大阪太鼓文化研究会*	広島県	大朝飾り牛保存会	栃木県	大沢田太々神楽保存会
兵庫県	小五月祭(棹の歌)保存会	山口県	徳佐はやしだ保存会	群馬県	上泉獅子舞保存会
鳥取県	賀露神社麒麟獅子舞保存会	愛媛県	井原圭子氏(和紙用簀製作)*	神奈川	長安寺六字詰念仏講中
島根県	須佐神楽保存会	福岡県	水田天満宮稚児風流保存会	新潟県	二田物部神社神楽舞保存会
広島県	小原大元神楽 小原神楽団	佐賀県	戸ヶ里浮立保存会	福井県	今庄羽根曾踊保存会
	南方の万灯保存会		祖子分面浮立保存会	長野県	湯原神社式三番保存会
香川県	肥土山農村歌舞伎保存会	長崎県	滑石竜踊保存会		外倉獅子舞保存会
愛媛県	豊茂五ッ鹿踊り保存会	熊本県	菜ノ花会*	岐阜県	高桑太鼓保存会
高知県	西諸木花取踊り保存会		九州相良古代踊り下免田保存会	愛知県	金沢歌舞伎
佐賀県	広瀬浮立保存会	大分県	佐伯市宇目酒利獅子保存会	三重県	なすび団扇継承保存会*
長崎県	太田尾地蔵祭飾そめん保存会*		下旦祇園囃子保存会こども祇園囃子		「てんてん」保存会
	戸根浮立保存会	宮崎県	行藤町臼太鼓踊り保存会	滋賀県	古高鼓踊り保存会
熊本県	加勢川開発研究会合せ打保存会*		六日町ヨイマカ保存会	京都府	天満神社相撲保存会
	下里臼太鼓踊り保存会	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*	大阪府	樫井西青年団
大分県	萩神社俵楽	沖縄県	鯨島健志氏(加世田の鍛冶)*	兵庫県	宗教法人 廣峯神社
宮崎県	太郎坊べぶ踊り保存会		大浜青年会	奈良県	月ヶ瀬奈良晒保存会*
鹿児島	入来神舞保存会		今泊棒術保存会	和歌山	熊野速玉大社祭事保存会
沖縄県	新川青年会			鳥取県	江波三番叟保存会
平成17年度助成(37)		平成16年度助成(36)		島根県	都神楽団
青森県	青森ねぶた正調囃子保存会	北海道	剣淵神楽保存会「剣龍会」	岡山県	地域伝統工芸がまそごの会*
岩手県	大ヶ生山伏神楽保存会	青森県	大川原の火流し保存会		神根神社獅子舞保存会
	喜多流大船渡	宮城県	山田大名行列組合	広島県	磐門神楽団
宮城県	新城の田植踊保存会	秋田県	湯船保存会*		郷之崎神楽団
秋田県	赤田獅子舞保存会	山形県	根子番楽保存会	山口県	山崎八幡宮 本山神事保存会
山形県	蔵岡延年の舞保存会	群馬県	吹浦田楽保存会	徳島県	大保じょうれい踊り保存会
福島県	館早乙女踊保存会	千葉県	行田獅子舞保存会	愛媛県	河内口説保存会
	木目沢三匹獅子保存会	神奈川	バツパカ獅子舞保存会		野間獅子連中
茨城県	日立郷土芸能保存会	長谷ささら踊り盆唄保存会		福岡県	浮羽町石垣保存実行委員会*
栃木県	三本木獅子舞保存会	石川県	輪島市本町キリコ奉賛会	佐賀県	佐賀錦振興協議会*
埼玉県	辻の獅子舞保存会	岐阜県	数河獅子保存会		西神野玄蕃一流浮立保存会
千葉県	岩沼の獅子舞保存会	静岡県	富士宮囃子保存会		千代田中部小学校 高志狂言保存会
	中野獅子保存会	愛知県	住吉ちんとう祭委員会	長崎県	大浦区舟グロー保存会
	幸田羯鼓舞保存会	三重県	本郷「かんこ」踊り保存会	熊本県	菜ノ花会*
東京都	矢部八幡宮獅子舞保存会	滋賀県	志那中サンヤレ踊り保存会		相良吾平阿蘇神社伝統神楽保存会
神奈川	田村ばやし保存会	京都府	二箇上区		産島八幡宮海を渡る祭礼保存会
福井県	蔵生区自治会		阿良須神社練込保存会	大分県	板井迫神楽保存会
山梨県	高尾山穂見神社神楽保存会	兵庫県	魚吹八幡神社武神祭保存会	宮崎県	虚無僧踊保存会
長野県	熊野神社祭囃子保存会	奈良県	尾山萬歳保存会	鹿児島	塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)*
	桐原獅子舞保存会	和歌山	推出の鬼の舞保存会	沖縄県	津波古獅子蹴跳保存会*
愛知県	牧野嶋念仏踊り保存会	鳥取県	貴布禰神社麒麟獅子舞保存会		那覇市首里汀良町獅子舞保存会
三重県	白塚町通夜講	島根県	見々久神楽保持者会		
滋賀県	渋川花踊り保存会	広島県	枝の宮田楽団		
兵庫県	住吉神社水無月祭打込囃子保存会	徳島県	つるぎ町一字雨乞い踊り保存会		
奈良県	田原地区伝統芸能保存会	愛媛県	佐田岬製織り保存会*		
和歌山	春駒保存会		客天弓祈禱保存会		
島根県	矢上田植ばやし保存会	高知県	狩山豊年踊保存会		
広島県	羽佐竹神楽団後援会	福岡県	求菩提山お田植祭保存会		
福岡県	八女市土橋八幡宮神幸行事保存会	佐賀県	仁比山神社大御田祭御田舞保存会		
佐賀県	川内浮立保存会	長崎県	上戸石町自治会		
	三都区	熊本県	西安寺神楽保存会		
長崎県	中尾獅子浮立と唐子踊保存会	大分県	大恩文化財愛護少年団		
熊本県	宝川内志賀段七踊り保存会	宮崎県	唐瀬子供神楽会		
大分県	田原獅子保存会	鹿児島	田之浦山宮神社神楽保存会		
宮崎県	川内棒踊保存会	沖縄県	いしゃなざら青年会		
鹿児島	久見崎盆踊り「想夫恋」保存会				
沖縄県	天願獅子舞保存会				
平成18年度助成(37)		平成19年度助成(37)			
北海道	元更別大国神社石見神楽保存会	青森県	片岸えんぶ組		
青森県	斗内獅子舞保存会	岩手県	田東剣舞保存会		
岩手県	豊沢大念佛剣舞保存会	宮城県	廿一田植踊保存会		
	生出神楽保存会	秋田県	黒川番楽保存会		
宮城県	大曲法印神楽保存会	山形県	羽黒山松例祭若者衆		
秋田県	大湯太太鼓保存会	福島県	昭和村からむし織後継者		
福島県	会津万歳安佐野保存会		→育成事業実行委員会*		
茨城県	片野排禍ばやし保存会	栃木県	尾ざく獅子舞保存会		
栃木県	興野ささら獅子舞保存会	群馬県	赤城町古典芸能保存会		
群馬県	泉沢町郷土芸能保存会	千葉県	本納滝の谷獅子舞保存会		
千葉県	万作踊り松戸保存会	東京都	むさしのばやし保存会		
東京都	美山町鯨獅子舞保存会	神奈川	三増獅子舞保存会		
神奈川	あつぎひがし座	富山県	宮崎神楽保存会		
		長野県	和田中神社太神楽保存会		
		愛知県	上駒沢祭典保存会		
			向山神楽獅子保存会		

平成3年～令和2年 都道府県別伝統文化助成先一覧(4) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
熊本県 鹿児島 沖縄県	黒辺田野臼太鼓踊保存会 塩田次郎氏(薩摩琵琶製作)* 黒島民俗芸能保存会	栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川県 新潟県	下鉢石町自治会 宝積寺白鬚神社雅楽部 椿名神社太々神楽保存会 脚折雨乞行事保存会 岩沼の獅子舞保存会 田無ばやし保存会 海南神社行道面保存会 他門神楽保存会 半田神社神楽舞保存会 八口諏訪社獅子舞保存会 大垣外獅子舞保存会 岐阜県 美濃歌舞伎保存会 掛塚屋台囃子保存会 六ツ師獅子舞保存会 生桑町長松神社鏡餅奉納会 曽原かんこ踊保存会 篠田の花火保存会*	平成18年度助成(続き)	
	平成22年度助成(42)		富山県 山梨県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 大阪府 奈良県 和歌山 島根県 岡山県 広島県 徳島県 香川県 福岡県 佐賀県 長崎県	石川県 加賀万歳保存会 舟寄踊保存会 きねこさ祭保存会 椿神社流鏑馬保存会 大阪欄間工芸協同組合* 仁色長持保存会 糸我郷土伝統芸能保存会 美成地区 野石谷伝統芸能保存会 諸木郷土芸能保存会 多田健二氏(阿波木偶人形制作)* 香翠座デコ芝居保存会 豊前感應楽保存会 西牟田区子供みこし・鉦浮立保存会 平島ナーマイドー保存会 ききつ船津パーロン保存会 熊本市 竹迫観音祭保存会下町分会 栖本町郷土芸能保存会 大分県 保戸島伝統芸能保存会 宮崎県 熊襲踊保存会 細野一区輪太鼓踊り保存会 鹿児島 小島棒踊り保存会 中間棒踊り保存会 沖縄県 中城村宇津覇伝統芸能保存会	
千葉県 東京都 新潟県 富山県 石川県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 大阪府 兵庫県 奈良県 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 愛媛県 高知県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県 大分県 宮崎県 沖縄県	千葉県 柏合獅子舞保存会 熊野神社神楽保存会 上本郷獅子講中 檉立踊り保存会 川根谷内獅子保存会 福島青年親交会 小松尾小屋齋保存会 玉依比賣命神社 加納まちづくり会(和傘製作)* 巖室神社鎮火祭保存会 有松天満社文嶺講 牛蒡祭保存会 志賀神社氏子総代 三ツ松明土行念仏保存会 北野まつり保存会 惣谷狂言保存会 向垣神社祭祀行事保存会 御霊会風流保存会 佐方子供吉備神楽伝承教室 おおたけ手すき和紙保存会* 山口県 山代白羽神楽保存会 橘だんじり祭り獅子組 北方獅子舞保存会 シットロ踊り保存会 鷹尾神社伝統芸能文化保存維持会 母ヶ浦面浮立保存会 平島盆踊り保存会 栖本町郷土芸能保存会 新町自治会 高木郷土芸能保存会 都城市高城町桜木あげ馬保存会 鳩間民俗芸能保存会	徳島県 香川県 福岡県 長崎県 熊本県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	徳島県 香川県 福岡県 長崎県 熊本県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	平成19年度助成(39)	
	平成23年度助成(42)		北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 福島県 栃木県 群馬県 埼玉県 千葉県 東京都 神奈川 新潟県 富山県 石川県 長野県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 兵庫県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 熊本県 熊本市 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	北海道 寿都松前神楽保存会 青森県 大平大神楽 岩手県 法領田獅子踊り保存会 羽山神楽保存会 宮城県 浪板虎舞保存会 秋田県 島海山日立舞横岡番楽保存会 山形県 幸生区・三地区契約会 福島県 浮島神社太々神楽保存会 糠塚三匹獅子保存会 栃木県 芦沼獅子舞保存会 山本政史氏(日光下駄製作)* 群馬県 貝沢西組獅子舞保存会 埼玉県 下日出谷餅搗踊り保存会 千葉県 八幡神社の獅子舞保存会 東京都 星竹囃子連 新潟県 内島見神楽保存会 石川県 ニ所宮獅子舞保存会 福井県 長畝日向神楽保存会 山梨県 藤木道祖神祭保存会 長野県 山新田太神楽保存育成会 愛知県 名古屋港筏師一本乗り保存会 三重県 矢浜神楽保存会 滋賀県 大原学区豊年太鼓踊り保存会 京都府 田山花踊り保存会 兵庫県 小野原住吉神社神舞保存会 岡山県 粟井春日歌舞伎保存会 広島県 長尾神社湯立神楽保存会 山口県 藤生神楽保存会 徳島県 上八万伝統文化を守る会 香川県 賀茂神社長床神事保存会 愛媛県 かぶと踊り保存会 高知県 東洋町流鏑馬保存協議会 熊本県 大浦獅子保存会 熊本市 柳別府太鼓踊り保存会 大分県 深山流朝地神楽保存会 宮崎県 郷之原芸能協賛会 鹿児島 鯨島健志氏(加世田の鍛冶)* 如竹踊り保存会 沖縄県 古見民俗芸能保存会	
神奈川 新潟県 富山県 福井県 山梨県 長野県 岐阜県 静岡県 愛知県 三重県 京都府 大阪府 兵庫県 奈良県	北海道 糠内獅子舞保存会 同心町熊野神社神楽連 岩手県 外山神楽保存会 宮城県 熊野堂神楽・舞楽・十二神鹿踊保存会 秋田県 福嶋サイサイ囃子保存会 山形県 若宮八幡神社太々神楽保存会 福島県 杉沢愛宕神社三匹獅子保存会 群馬県 美茂呂町屋台囃子保存会 埼玉県 白久串人形芝居保存会 千葉県 旅名自治会 東京都 鹿島流獅子舞引田保存会 諏訪神社崇敬会 川名屋台ばやし保存会 天神林天満宮伶人会 富山県 田島自治会 福井県 宇波西神社神事芸能保存会 山梨県 山梨岡神社太々神楽舞子 NPO法人小谷山村留学育成会* 長野県 小野八幡神社祭礼運営委員会 静岡県 東光寺猿舞保存会 愛知県 中之切奉賛会 立神自治会 京都府 周枳氏芸保存会 大阪府 野崎第一地車保存会 兵庫県 淡路人形浄瑠璃青年研究会 奈良県 神波多神社獅子神楽保存会	神奈川 新潟県 富山県 石川県 長野県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 兵庫県 奈良県 和歌山 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 徳島県 香川県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県	神奈川 新潟県 富山県 石川県 長野県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 兵庫県 奈良県 和歌山 鳥取県 島根県 岡山県 広島県 徳島県 香川県 福岡県 佐賀県 長崎県 熊本県	平成20年度助成(40)	
			北海道 青森県 岩手県 宮城県 秋田県 山形県 福島県 新潟県 富山県 石川県 長野県 静岡県 愛知県 三重県 滋賀県 京都府 兵庫県 岡山県 広島県 山口県 徳島県 香川県 愛媛県 高知県 熊本県 熊本市 大分県 宮崎県 鹿児島 沖縄県	北海道 寿都松前神楽保存会 青森県 上十川獅子踊保存会 岩手県 都島田植踊保存会 宮城県 日高見流鏑馬法印神楽保存会 秋田県 鳥海山小滝舞楽保存会 山形県 舟渡獅子踊り保存会 福島県 北萱浜神楽愛好会	

平成3年～令和2年 都道府県別伝統文化助成先一覧(5) *印は民俗技術

助成先		助成先		助成先	
		平成25年度助成(42)		平成23年度助成(続き)	
島根県	玉造調理師会	青森県	上川目神楽保存会	島根県	出雲國奏楽鍾成会
広島県	山波神楽団	岩手県	大石虎舞組	広島県	大朝飾り牛保存会
山口県	住吉神社お船謡保存会		築館大乘神楽保存会	山口県	お手廻り保存会
徳島県	鳴門大風保存会	宮城県	鳥屋ヶ崎八幡神社獅子舞保存会	徳島県	大谷郷土文化保存会
香川県	石切唄保存会	秋田県	釜ヶ台番楽保存会	香川県	七宝古流本村夫婦獅子舞保存会
愛媛県	掛木天満宮「牛鬼」保存会	山形県	中獅子踊り保存会	愛媛県	佐方獅子保存会
高知県	御田八幡宮秋の例祭保存会	福島県	和田神社太々神楽保存会	高知県	大和太刀踊保存会
福岡県	柳川市立柳河小学校 →特別クラブ「子どもどろんどろん」	茨城県	久保田のおはやし保存会	福岡県	ぜんでこ踊り保存会
佐賀県	川上鉦浮立保存会	栃木県	万町一丁目東自治会		平八月祭り保存会
長崎県	東上面浮立保存会	群馬県	新田赤堀獅子舞保存会	佐賀県	南片白区浮立保存会
熊本県	熊本新町獅子保存会	埼玉県	北本宿囃子連	長崎県	馬場本浮立保存会
宮崎県	細江神楽保存会		神明社神楽保存会	熊本県	小屋川内獅子舞保存会
	風田製糖組合*	千葉県	関下囃子	大分県	重岡若戸神楽保存会
鹿児島県	花尾太鼓踊り保存会	東京都	檜原村春日神社御飼神事保存会	宮崎県	花木地区郷土芸能あげ馬保存会
沖縄県	勢理客区	新潟県	長沢祭典実行委員会	鹿児島県	西上太鼓踊り保存会
平成27年度助成(44)		富山県	打出青壮年部	沖縄県	伊平屋村青年団協議会
北海道	遠矢神楽舞保存会	石川県	串町町内会	平成24年度助成(54)	
青森県	甲地神楽保存会	福井県	闇見神社例祭神事保存会	青森県	五戸えんぶり組
岩手県	小通芸能保存会	山梨県	新町お囃子保存会	岩手県	門中組振興会
	槻沢芸能保存会	岐阜県	NPO法人グリーンウッドワーク協会・竹部会*		片岸虎舞保存会
宮城県	三輪流神楽保存会	愛知県	愛知・半田・板山万歳保存会	宮城県	山岸さんさ踊り保存会
秋田県	坂之下番楽保存会	三重県	東玉垣唐人踊り保存会 軸		小室契約会
山形県	綱木獅子踊り保存会	滋賀県	鍋冠祭保存会		浪板虎舞保存会
茨城県	古内大杉ばやし保存会	大阪府	御領地車保存会		磯草虎舞保存会
栃木県	天下一関白流西組獅子舞保存会	兵庫県	羽淵獅子舞保存会		大谷大漁唄い込み保存会
埼玉県	久那獅子舞保存会	奈良県	吐山太鼓踊り保存会		長塩谷南部神楽保存会
	金鑽神楽永田組	和歌山	三船踊り保存会		大室南部神楽保存会
千葉県	浄土宗西福寺	島根県	美保神社神事奉賛会		相川南部神楽保存会
東京都	大宮前郷土芸能保存会	岡山県	佐方ひがさき踊り保存会		有限会社仙台堆米製作所*
	多摩めかいの会*	広島県	錦城神楽団	秋田県	秋田万歳保存会
神奈川	根府川寺山神社鹿島踊保存会	山口県	滝坂神楽舞保存会	山形県	大谷神楽保存会
新潟県	昔かたり春よこい	徳島県	宿毛谷獅子舞保存会	福島県	川原田神楽保存会
富山県	広野自治会	愛媛県	金栄会		新館太々神楽保存会
石川県	神子原壮年団	高知県	四ッ白武士踊り会		鹿島神社郷土芸能保存会
長野県	日和山神社芸能保存会	福岡県	安武楽保存会	栃木県	天命鑄物伝承保存会*
岐阜県	綾野第三自治会小獅子軸保存会		豊前小倉織研究会*	群馬県	白瀧神社太々神楽保存会
愛知県	知立神楽保存会	佐賀県	執行分浮立保存会	埼玉県	下小坂獅子舞保存会
三重県	若宮八幡神社北村石取り祭車保存会	長崎県	長崎明清楽保存会	千葉県	飯岡ばやし 日の出
滋賀県	大野木豊年太鼓踊保存会	熊本県	市房山神宮里宮神社	東京都	高井戸囃子保存会
京都府	玉田神社宮座「森座」		長坂なれなれなすび踊り保存会	新潟県	大谷地和紙保存会*
大阪府	中垣内地車保存会	宮崎県	中野神社神楽保存会		蔵王稚児舞の会
兵庫県	土師獅子舞保存会	鹿児島県	黒潮太鼓	富山県	加茂神社神事伝承会
奈良県	篠原おどり保存会	平成26年度助成(44)		石川県	向粟崎悪魔払い保存会
和歌山	亀の川念仏踊り保存会	北海道	美和権現獅子舞保存会	福井県	多賀区獅子保存会
鳥取県	菖蒲神社麒麟獅子舞保存会	青森県	目名神楽会	山梨県	中之倉神楽保存会
島根県	三谷神社獅子舞保存会	岩手県	の組菱和会	長野県	湯原神社式三番保存会
広島県	山根神楽団	宮城県	白浜自治会(旧白浜契約会)	岐阜県	河鹿神社賀喜踊保存会
	おおたけ手すき和紙保存会*	山形県	舟渡獅子踊り保存会	愛知県	万足平を考える会*
山口県	切山歌舞伎保存会	福島県	松岡若連		村木神社おまんと祭り保存会
徳島県	池谷郷土芸能保存会	栃木県	日光囃子保存会	三重県	戸木東組かんこ踊り保存会
愛媛県	井原圭子氏(和紙用簀製作)*	群馬県	津久田人形操作伝承委員会	滋賀県	小野町太鼓踊保存会
福岡県	永井獅子保存会	埼玉県	今成地区山車・囃子保存会	大阪府	深江菅細工保存会*
佐賀県	浮立・荒踊り保存会		赤沼民俗文化財保存会	兵庫県	西町獅子舞保存会
長崎県	命婦の舞保存会		久長元耕地獅子舞保存会	奈良県	田原地区伝統芸能保存会
熊本県	仲町の茶わん鉢保存会	千葉県	道庭獅子連保存会	和歌山	堅田祭保存会
	宇土市轟泉簡易水道組合*	東京都	八幡囃子保存会	岡山県	大浦神社
大分県	堅浦古典芸能保存会	神奈川	台祭囃子保存会	広島県	御調八幡宮花の踊り保存会
宮崎県	神下俵踊り保存会	新潟県	水沢伝統芸能保存会	山口県	上野神楽舞保存会
鹿児島県	目手久民謡保存会	富山県	加茂神社神事伝承会	徳島県	森藤獅子舞保存会
沖縄県	仲西獅子舞保存会	石川県	内灘町宮坂区	香川県	安田おどり保存会
平成28年度助成(43)		福井県	鈴鹿区太鼓保存会	愛媛県	井原圭子氏(和紙用簀製作)*
北海道	寿都松前神楽保存会	山梨県	一之瀬高橋春駒保存会	高知県	泉川長者花鳥踊り保存会
青森県	入口青年会	長野県	根神社式三番曳保存会	福岡県	植木の三申踊保存会
	嘉瀬奴踊り保存会	岐阜県	綾野第4自治会綾野祭軸々軸保存会	佐賀県	鳥海浮立保存会
岩手県	板沢しし踊り保存会	愛知県	上名和祭りばやし保存会	長崎県	森山本村郷土芸能保存会
宮城県	赤谷神楽保存会		東大高祭禮保存会	熊本県	東浦臼太鼓踊り保存会
秋田県	鳥海山小滝舞楽保存会	滋賀県	下笠参弥礼踊り保存会	大分県	北原人形芝居保存会
山形県	清川獅子神楽実行部会	京都府	出雲風流花踊り保存会	宮崎県	不土野芸能保存会
福島県	太田川梅若歌念仏踊保存会		NPO法人丹波漆*	土曜保存会	
	梅田三匹獅子舞保存会	大阪府	延喜式内社 岐尼神社	鹿児島県	童子八月踊り研究会
栃木県	大沢獅子舞保存会	和歌山	池田秀孝氏(紀州高野組子細工技術)*	沖縄県	豊見城市 高安自治会
群馬県	鷺宮太々神楽保存会	鳥取県	服部神社獅子舞保存会		

* 印は民俗技術

[illegible]

財団案内

財団の目的

明治安田クオリティオブライフ文化財団(理事長:関口憲一)は、音楽における人材育成ならびに地域の伝統文化の保存維持、および後継者育成に対する助成などをおこない、もって国民生活の質的向上ならびにわが国文化の発展に寄与することを目的としています。

【財団の概要】

名 称	公益財団法人 明治安田クオリティオブライフ文化財団 The MEIJI YASUDA CULTURAL FOUNDATION
設 立	平成3年(1991年)6月10日
主務官庁	内閣府
基本財産	15億円
事業内容	・音楽分野における若手芸術家の人材育成に対する助成 ・民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・芸術文化活動に関する調査研究、出版物の刊行
事業計画	○クラシック音楽分野における若手音楽家の人材育成に対する助成 ・海外における音楽研修に対する助成 ・国内音楽学生に対する奨学援助 ○民俗芸能等地域の伝統文化の保存維持、後継者育成に対する助成 ・地域の民俗芸能(含、民俗行事、民俗音楽)の保存維持、後継者育成のための助成 ・地域の民俗技術(含、伝統的製作技術、衣食住に関わる生活技術、伝統工芸)の保存維持、後継者育成のための助成
事業成果	これまでの累計助成状況(令和2年11月現在) ・音楽分野 541人 9億5,640万円 ・伝統文化分野 1,264件 6億4,797万円
主な出捐企業	明治安田生命保険相互会社